

# 保健体育（保健）

## 1 研究のテーマ

### (1) 研究テーマ

意思決定や行動選択する力の向上を目指した保健の授業の実践

～新型コロナウイルス感染症を題材にして～

### (2) 研究のねらい

『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説保健体育編体育編』には「我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康課題や健康の考え方が変化するとともに、様々な健康への対策、健康増進の在り方が求められている」と示されている。

これらの問題に対処するためには、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択及び健康的な環境づくりの重要性について理解を深めることが重要である。

また、新型コロナウイルス感染症のまん延は社会全体に大きな影響を与えている。このウイルスの影響により、日々変化する社会情勢下においても生徒自身が健康・安全に関する知識を習得し、それらを活用し意思決定や行動選択する力が一層求められる。

そこで本研究では、「現代の感染症とその予防」において、新型コロナウイルス感染症を題材にし、ブレインストーミングやディスカッション活動を取り入れ、生徒の意思決定や行動選択する力の向上を目指した授業を実践し、主体的・対話的で深い学びを通して、特に生徒の「思考力、判断力、表現力等」を育成することをねらいとする。

## 2 実践事例

### (1) 単元指導計画

ア 科目名：保健（入学年次）

イ 単元名：Ⅰ. 現代社会と健康（イ）現代の感染症とその予防

ウ 単元の目標：

- ・現代の感染症とその予防について、理解することができるようにする。〔知識及び技能〕
- ・現代の感染症とその予防に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようにする。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・現代の感染症とその予防について、自他や社会の健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。〔学びに向かう力、人間性等〕

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られること、その際、交通網の発達により短時間で広がりやすくなっていること、また、新たな病原体の出現、感染症に対する社会の意識の変化等によって、腸管出血性大腸菌（O 157 等）感染症、結核などの新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ②感染症のリスクを軽減し予防するには、衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策とともに、それらを	①感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられることについて、事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用している。 ②現代の感染症とその予防について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。	①現代の感染症とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。

前提とした個人の取組が必要であること、エイズ及び性感染症の原因、及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について、理解したことを言ったり書いたりしている。		
--	--	--

オ 単元の指導と評価の計画

	時間	1	2	3	4
		現代の感染症	感染症の予防	性感染症・エイズとその予防	単元のまとめ
学習の流れ	0	前時の振り返り、本時の目標の確認			
	10	現代の感染症の知識に関する事前確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症予防三原則</li> <li>・現代の感染症対策</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">知識</div>	性感染症の知識に関する事前確認	前時の調査結果の共有
	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症とは</li> <li>・様々な感染症</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">知識</div>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・性感染症・エイズとは</li> <li>・性感染症・エイズの予防法</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">知識</div>	現在のマスクの着脱に関する国の指針を確認
	30	【ブレインストーミング】コロナで変化した事	【ディスカッション】座間高等学校内で新型コロナウイルス感染症を感染拡大させないためにどのような予防・対策ができるだろうか		【ディスカッション】マスクの着脱に関するニュースについて自己の考えを共有する。
	40	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">ICT活用</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">思、判、表等</div>		行動選択に関する調査
50	本時の振り返り、次時の確認				
評価機会	観点/時間	1	2	3	4
	知識・技能	①	②	②	
	思考・判断・表現		①		②
	主体的に学習に取り組む態度				①

評価の方法	
知識・技能	学習カード、定期テスト
思考・判断・表現	観察、学習カード
主体的に学習に取り組む態度	観察、学習カード

カ 授業実践例（2時間目／4時間扱い）

本時の目標

- (1) 感染症の予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解できるようにする。  
[知識及び技能]
- (2) 現代の感染症とその予防に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようにする。[思考力, 判断力, 表現力等]
- (3) 現代の感染症とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。  
[学びに向かう力, 人間性等]

## 本時の評価

思考・判断・表現①：感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられることについて、事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用している。

学習活動(指導上の留意点を含む) (○：生徒の学習等、●：教員の支援等)	評価の観点 (評価方法)
<p>1 挨拶、出欠確認</p> <p>2 本時のねらい、前回の復習</p>	
<p>【本時のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な感染症の予防法を理解し、新型コロナウイルス感染症についての予防の在り方について他者と学び合う中で自身の考えを深め発表できるようにする。</li> </ul>	
<p>3 予防三原則と現代の感染症対策</p>	
<p>発問1：感染症の予防について、どんな方法を知っていますか？</p>	
<p>予想される生徒の回答例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗いうがい</li> <li>・渡航を止める</li> <li>・手指消毒</li> <li>・除菌</li> <li>・煮沸消毒</li> <li>・加熱</li> </ul> <p>○制限時間内にグループで多く挙げ、プリントに書き出す。</p> <p>●いくつかグループに発表するよう指示をし、多様な考えがあることを理解するよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>予防三原則と現代の感染症対策（知る）</b></li> <li>○スライドを見ながら教員の説明を聞き、重要事項等をプリントに記載する。</li> </ul>	
<p>発問2：発問1で出てきた回答のうち、新型コロナウイルス感染症の予防において特に注目されたものは何だと思えますか？また、そう考えた理由はなぜですか？</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●一般的な感染症の予防対策から、新型コロナウイルス感染症の予防対策に焦点をあて、なぜ、その対策が有効視されたか、生徒が考えを深め、説明できるよう支援をする。</li> </ul>	
<p>4 グループ活動【ディスカッション】</p>	
<p>課題1：学校生活で行う新型コロナウイルス感染症に対する感染症対策を予防三原則に沿ってあげてみよう。</p> <p>課題2：新型コロナウイルス感染症患者数が減少した場合の感染対策の在り方を検討し、提案しよう。</p>	
<p>●グループごとに予防三原則の担当を割り振る。（1テーマ2班ずつ）</p> <p>グループ活動【ディスカッション】の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学校生活で行う感染症対策について、具体的な例を挙げる。</li> <li>②現時点で重視すべきものを班で話し合い絞る。</li> <li>③今後感染者数が減少した場合の感染対策の在り方を班で話し合う。</li> </ol>	
<p>5 全体で共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○クラス全体でどんな意見が出たかを発表する。</li> <li>●ホワイトボードを使い、結果を可視化するよう指示をする。</li> <li>●多様な考え方があり、それらを受け入れた上で、健康・安全を向上させるためには、どのような意思決定や行動選択をしていく必要があるか説明し考えさせる。</li> </ul>	

<p>7 自分の考えをまとめる（深める）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○最終的な自分の考えを学習カードに記述する。</li> <li>●本時のまとめをスライドで確認させる。</li> </ul> <p>8 挨拶</p>	<p>思考・判断・表現①：感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられることについて、事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用している。</p> <p>(学習カード)</p>
--	---

研究実施校：神奈川県立座間高等学校(全日制)

実施日：令和4年10月14日(金)

授業担当者：脇 千登勢 教諭

## (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

### ア 主体的な学びについて

授業の導入において、前時に学習した知識と、本時の前半に学習する知識を活用し、展開部で自身の感染症の予防に関する考えを深めるとともに、社会的な対策についても考えるという流れを説明し授業の導入で見通しを持たせた。また、発問1において、現在の生活における感染症の予防を挙げさせ、生徒が主体的に考える時間をつくることで、生徒の頭脳内がアクティブに働くよう促す工夫を行った。

授業のまとめにおいては、授業全体のまとめスライドを使用することで、学びの振り返りができ、次時の授業へも主体的に臨めるよう工夫を図った。併せて、学習カードを活用し、本時の振り返りを行った。

### イ 対話的な学び、深い学びについて

展開では、知識を教える時間は短めに設定することで、生徒同士の対話や、ICTを活用し情報収集するといった対話的な活動時間を十分に確保できるよう努めた。さらに、授業で学習した知識やそれらに関連した情報を収集するだけでなく、それらの知識を基にディベート活動を通して、筋道を立て自己の意見を他者に伝え、説明する力の育成を図った。加えて、グループ内での活動に留めず、クラス全体で共有することで表現力のより一層の育成を図った。

### ウ 深い学びについて

新興感染症について学習する上で、新型コロナウイルス感染症といった喫緊の健康課題を題材とすることで、授業で学習したことを実社会で結び付けやすくし、より自身の生活や社会生活における健康・安全について深く考えることができるように教材の工夫を図り、生徒の深い学びにつなげた。

### エ 学習評価について

本時の評価は「思考・判断・表現①：感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられることについて、事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用している。」であり、評価方法は学習カードを用いた。事前に判断の目安となるルーブリック評価表(表1)を作成し、生徒の学習カードの記載から評価を行った。

表1 判断の目安となるルーブリック評価表（評価方法：学習カード）

実施状況	判断の目安	生徒の回答例
A：十分満足	学習した知識を基に、感染症の予防について、自身の実生活や社会情勢、季節等を踏まえ自らの考えを具体的に記述している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部室など狭い空間ではマスクをして感染経路のリスクをあげないようにしている。</li> <li>・部活や塾で帰りが遅くなる分、帰宅後は早く寝てしっかり睡眠をとり、感受性者の免疫を高めるようにしている。</li> <li>・体調に異変がありそうな仲間がいた際は無理せず先生に相談するよう伝えて、早期発見・早期治療につなげられるようにする。</li> <li>・学校や人が多く集まるイベントに参加する時や、電車などの公共交通機関を使用する際は、飛沫感染等を防ぐ意味合いからマスクを着け、そうでない場合や、暑い日や体育の授業で息苦しくなった際はマスクを外すなど、生活に合わせてマスクの着脱を見直していきたい。</li> <li>・仲間とコミュニケーションをとる際も、咳エチケットは意識してマナーとして感染経路対策ができるようにする。</li> <li>・感染者数が減少したとしても、ワクチン等をうまく活用し、社会経済活動が止まらないようにしていきたい。</li> </ul>
B：おおむね満足	学習した知識を基に、感染症の予防について、自らの考えを記述している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗いうがいをする。</li> <li>・黙食をする。</li> <li>・授業中は基本マスクをする。</li> <li>・感染者数が減少したら、マスクはなるべく外したい。</li> <li>・感染者数が減少したら、昼食は仲間と一緒にコミュニケーションをとりながら食べたい。</li> <li>・感染者数が減少しても、基本的感染対策は今後も継続するべき。</li> </ul>
C：努力を要する	学習した知識を基に、感染症の予防について、自らの考えを記述していない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスクはめんどくさい。</li> <li>・とりあえず寝る。</li> </ul>

### (3) 学習カードについて

単元を通して、生徒が知識の習得だけでなく、思考・判断したことを表現したり、学習の振り返りを手助けするために、学習カードを作成し活用した。実際の授業では「キーワードを記載する」「課題に対する自分の考えをまとめる」「他者の発表を聞いてメモをする」「分かったことを整理する」「単元の学習を振り返り次の学習目標を立てる」などといった学習活動において活用した。

研究授業の時間では、教科書内で取り扱った一般的な感染症対策を基に、生徒が自身の生活でどのように実践できるかを考えた。さらにグループで意見交換をし、考えを深め、自身や社会全体が健康・安全に今後どのように生活できるかといった視点で意思決定や行動選択していく必要があるかというように学習の道筋も分かるよう作成した。

(4) 生徒が記載した学習カードの内容について（生徒の学習カードより一部抜粋。誤字、脱字を除き、原文のまま記載）

生徒A	国が推奨している感染防止対策をテレビのニュースなどを通して把握し、守るということの基本として、激しい運動をするときや登下校で周りに人がいないときにはマスクを着用しないという選択もしていきたいと思いました。
生徒B	私はマスク着用特に嫌悪感を抱えていないのでつけたままでいいかなと考えている。外出した際にマスクをしていない人がいると今は「あの人マスクしてない」と少し嫌な目で見てしまう。今回国のマスク着用規定について改めて知ることができたのでそう思うことは減るのではないかなと思った。時、場所、場面を考える。
生徒C	着用する場面としない場面を自己判断で決める。マスクを外す場面としては、登下校での自転車、外部活動のダンスなどで、周りから注意されたり、その場所でのルールとしてマスクの着用が必要なときは着用するというようにしたい。周りのことを考えてマスクをつけることも大切だが、はずしている人がいたとしてもその人を悪く思ったり責めたりしないようにする。他の人に干渉しても、義務化されていないマスクの着用について対立しても無駄だと思う。

4 / 4 時間目での単元のまとめでは、以上のような、記述が数多く表出された。自分自身の健康だけではなく、他者にも目を向け、さらには社会全体の健康を保持増進するために、自分にできる意思決定・行動選択について考えた記載もあり、本研究の主題でもある生徒の意思決定や行動選択する力の向上に寄与できたと推察できる。

### 3 まとめ・今後の展望

本研究は、生徒の意思決定や行動選択する力の向上を目指した保健の授業実践であったが、上記で記載したように、単元を通して、その力が向上したと考えられる。また、指導事項にある新興感染症について、教科書の知識の内容だけでなく、喫緊の健康課題である新型コロナウイルス感染症を題材として用いたことで、生徒もより深く自分事として考えられたこともその要因の1つではないかと考えた。

生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するために、単元の各時間にブレインストーミングやディスカッションといった学習活動を計画的かつ積極的に取り入れた。さらには、教員は内容についての説明・解説をする際にも生徒へ積極的に発問をし、短時間（10秒あるいは15秒）のペアミーティングの時間を設けたことで、生徒の頭脳内は常にアクティブに働いていた。

教材の工夫（生徒にとって身近な題材：新型コロナウイルス感染症）や学習活動の工夫、学習カードの工夫等を通じて、生徒が主体的・対話的で深い学びを実現したことにより、「自分事」として捉えていた健康課題が「自分たち事」の健康課題と認識が広がり、個人だけではなく、自分自身を含む社会全体にまでその思考を広げることに繋がった。

最後に、本研究を始めるに当たり、保健部会の推進委員会では「保健の授業で学んだことを生徒の実生活と結び付けたい」、「生徒の意思決定や行動選択する力を向上させたい」、「新型コロナウイルス感染症というタイムリーな題材を教材として活用したい」、「本研究や授業実践が多くの先生方の授業づくりの手助けとなるようなものにしたい」といった想いから、この1年間の研究が発射した。保健という生活に密着した科目の特性を最大限に生かし、教科書に載っている事項だけに留まるのではなく、「現代の感染症とその予防」の単元における知識の指導事項である新興感染症の理解を深めるために教材研究を行った。

教科書は学習指導要領およびその解説を基に作成されているが、その題材におけるタイムリーさは欠けてしまう。本研究のように、学習指導要領及びその解説の指導事項を押さえ、「教員自ら教材を開発するという考え方」や、「本研究が汎用的に他校においても実施されること」、「研究授業の内容を自校の生徒の実態等に合わせ変化させ新たな授業となること」を期待する。そして最終的には、生徒の資質・能力が育成され、その生徒らが次世代を担っていくことを願う。